

1 はじめに

今回は、様々なデータの分析に便利な機能として、ゴールシーク・ソルバー・ピボットテーブルといった機能について演習した。

今回も引き続き Excel 2003 のデータ処理機能について演習する。

2 お品書き (本日の演習内容)

- 検索関数と行列関数の使用
- データベース関数

3 検索関数と行列関数

ここでは HLOOKUP, VLOOKUP の 2 つの関数について演習する。

HLOOKUP 関数では、ある特定の範囲にあるデータ範囲を横方向に検索し、検索キーと同じ値が入力されている列の値を返すことができる。一方、VLOOKUP 関数はある特定の範囲にあるデータ範囲を今度は縦方向に検索し、検索キーと同じ値が入力されている行の値を返すことができる。

これらの関数を使うと、特定のデータ値を一カ所に集め、残りの入力個所ではそれらの範囲にあるものから使うことができるため、入力の省力化が可能になるとともに、入力データの変更・訂正の際も、一括して元データ(マスタ)を変更するだけで他の個所で使っている場合にも全部を一変変更しない変更しないで済むため、便利であり、誤りを防ぐことにもなる。

例えば、商品情報のマスタ表をもっておき、商品名や商品単価についてはそちら一カ所で一元管理しておいて、他の入力個所ではその表からの検索して使うといった使い方をすれば、仮に商品情報が変更になったとしても、マスタの方のデータを一カ所変更するのみでよく、手間が省け、また、変更し忘れることもなく、便利である。更に、新しい商品が出た場合にも、新商品についての情報をマスタに登録しさえすれば、それまでのデータの入力方法と同じやり方がそのまま使えるようになる。

テキスト p.101 ~ 107 の内容に沿って、HLOOKUP と VLOOKUP の手順を確認しよう。

4 データベース関数の使用

リスト形式のデータ列を対象に一定の範囲の中から検索し、その結果について集計を行う関数(DSUM, DAVERAGE, DCOUNT など)がある。データベース関数といい、通常の統計関数などの頭に D が付いた関数名となっているので、D 関数とも呼ばれる。

検索条件の与え方は以前演習した詳細なフィルタオプション(p.51~)と同じで、検索フィールド名と検索条件とをそれぞれ検索対象データのリストと同じように書く。つまり、検索条件は、リストデータの見出しと検索条件の見出しとを合わせて書き、AND 条件を書くには複数行で書き、OR 条件を書くには一行で複数のフィールドを書くことで指定できる。

このため、とても詳細な条件指定も書けるようになっている。
 テキスト p.108 ~ 111 の内容に沿って、データベース関数の手順を確認しよう。

練習問題

データベース関数を使って、以下の練習問題の演習をやってみよう。

- 商品名「ダウンジャケット」の売上数の合計を出す。以下の図のようになるか確認してみよう。

商品名	売上金額合計	売上金額平均	売上数合計
ダウンジャケット	600,000	30,000	40

- 取引先「JK スポーツ」において売上数が2以上あった取引について、その売上数合計と、売上金額合計を出してみる。

取引先	売上数	売上数合計	売上金額合計
JKスポーツ	>=2	75	2,837,000

5 おわりに

今日は以下の項目について演習した。

- 検索関数・行列関数
- データベース関数

次回（5月30日）も引き続きテキストに沿って演習を進める予定である。

出欠

最後に、出欠確認として、以下の内容を提出すること。

- 日付
- 学籍番号
- 氏名

- 今日の演習の難易度 (1~5)
1:易しい、2:どちらかといえば易しい、3:普通、4:どちらかといえば難しい、5:難しい
- 質問・感想・要望等

連絡

授業時間外で担当者に質問・連絡事項がある場合は、メールにて行うこと。なお、メールを送る際にはサブジェクト(件名)には「情報基礎演習 III」を必ず入れること。

宛先: masao@nii.ac.jp